

もとす広域連合 療育医療施設 幼児療育センター 児童発達支援プログラム

作成日 令和6年12月10日

法人（事業所）理念	利用者及びその保護者の意思及び人格を尊重し、当該利用者等の立場に立った適切な児童発達支援を提供します。			
支援方針	利用者が日常生活における基本的動作を習得し、集団生活に適応できるよう、利用者の発達状況及びその置かれている環境に応じた適切な指導及び訓練を行います。			
営業時間	8時30分～17時15分まで（1単位 8：50～10：30 2単位 10：30～12：10 3単位 13：20～15：00 4単位 15：00～16：40）			
送迎実施の有無	あり（基本的にはお家の人の送迎でご利用いただけますが、「もとす広域連合療育医療施設幼児療育センター送迎サービス事業に関する内規」に基づき、必要と判断される方には、一部送迎を行っております。）			
支援内容				
幼児療育センターでは、お子さんとお家の人が一緒に通い、共に育つ療育を提供しています。お家の方には未就園児療育、就園児療育共に積極的に参観・参加していただいています。				
		就園児療育		
		※欠席の際は、出来る範囲で振替指導（個別療育・親子療育で対応）を行います。		
		グループ療育	個別療育	
		親子療育		
本人支援	① 健康・生活	・週1回～週2回のマンツーマン対応で療育を行います。 ・靴や衣服の着脱、食事、排泄など、日常生活動作を繰り返し経験していくことで、基本的な生活習慣の確立に向け、お家の人と共に取り組みます。(①)	・週1回、3～10人前後のグループ（小集団）で療育を行います。 ・自分で"できること""できたこと"をグループ全体で認め、増やしていきます。(①) ・入ってくる情報を整理し、場に合った行動がとれるよう手だてをたてて支援します。(③) ・協同遊び、集団遊びを通して、コミュニケーション能力を高め、グループ内での自己肯定感を高め集団への適応を促していきます。(②④⑤)	・週1回、マンツーマンの対応で療育を行います。 ・自分でできる事を増やし、身体の使い方（粗大運動・巧緻運動・協調運動）を学びます。(①②) ・お子さんの興味関心をもとに遊び込み、大人との関わりの中で自己肯定感を高めていきます。(⑤) ・大人との安定した関わりの中で、遊びを通して概念形成やコミュニケーション能力の向上を図ります。(②③④)
	② 運動・感覚	・靴や衣服の着脱、食事、排泄など、日常生活動作を繰り返し経験していくことで、基本的な生活習慣の確立に向け、お家の人と共に取り組みます。(①)	・週1回、3～10人前後のグループ（小集団）で療育を行います。 ・自分で"できること""できたこと"をグループ全体で認め、増やしていきます。(①) ・入ってくる情報を整理し、場に合った行動がとれるよう手だてをたてて支援します。(③) ・協同遊び、集団遊びを通して、コミュニケーション能力を高め、グループ内での自己肯定感を高め集団への適応を促していきます。(②④⑤)	・1組の親子と支援員でチームとなり療育を行います。 ・お子さんの興味関心をもとに、遊びを通して愛着形成を支援し、親子共に自己肯定感を高めていきます。(③⑤) ・親子の安定した関わりの中で、遊びを通して概念形成やコミュニケーション能力の向上を図ります。(②③④⑤) ・お家の人と共に、親子の関わりを考え、日常生活に繋げていきます。(①⑤)
	③ 認知・行動	・靴や衣服の着脱、食事、排泄など、日常生活動作を繰り返し経験していくことで、基本的な生活習慣の確立に向け、お家の人と共に取り組みます。(①)	・週1回、3～10人前後のグループ（小集団）で療育を行います。 ・自分で"できること""できたこと"をグループ全体で認め、増やしていきます。(①) ・入ってくる情報を整理し、場に合った行動がとれるよう手だてをたてて支援します。(③) ・協同遊び、集団遊びを通して、コミュニケーション能力を高め、グループ内での自己肯定感を高め集団への適応を促していきます。(②④⑤)	・1組の親子と支援員でチームとなり療育を行います。 ・お子さんの興味関心をもとに、遊びを通して愛着形成を支援し、親子共に自己肯定感を高めていきます。(③⑤) ・親子の安定した関わりの中で、遊びを通して概念形成やコミュニケーション能力の向上を図ります。(②③④⑤) ・お家の人と共に、親子の関わりを考え、日常生活に繋げていきます。(①⑤)
	④ 言語・コミュニケーション	・靴や衣服の着脱、食事、排泄など、日常生活動作を繰り返し経験していくことで、基本的な生活習慣の確立に向け、お家の人と共に取り組みます。(①)	・週1回、3～10人前後のグループ（小集団）で療育を行います。 ・自分で"できること""できたこと"をグループ全体で認め、増やしていきます。(①) ・入ってくる情報を整理し、場に合った行動がとれるよう手だてをたてて支援します。(③) ・協同遊び、集団遊びを通して、コミュニケーション能力を高め、グループ内での自己肯定感を高め集団への適応を促していきます。(②④⑤)	・1組の親子と支援員でチームとなり療育を行います。 ・お子さんの興味関心をもとに、遊びを通して愛着形成を支援し、親子共に自己肯定感を高めていきます。(③⑤) ・親子の安定した関わりの中で、遊びを通して概念形成やコミュニケーション能力の向上を図ります。(②③④⑤) ・お家の人と共に、親子の関わりを考え、日常生活に繋げていきます。(①⑤)
	⑤ 人間関係・社会性	・靴や衣服の着脱、食事、排泄など、日常生活動作を繰り返し経験していくことで、基本的な生活習慣の確立に向け、お家の人と共に取り組みます。(①)	・週1回、3～10人前後のグループ（小集団）で療育を行います。 ・自分で"できること""できたこと"をグループ全体で認め、増やしていきます。(①) ・入ってくる情報を整理し、場に合った行動がとれるよう手だてをたてて支援します。(③) ・協同遊び、集団遊びを通して、コミュニケーション能力を高め、グループ内での自己肯定感を高め集団への適応を促していきます。(②④⑤)	・1組の親子と支援員でチームとなり療育を行います。 ・お子さんの興味関心をもとに、遊びを通して愛着形成を支援し、親子共に自己肯定感を高めていきます。(③⑤) ・親子の安定した関わりの中で、遊びを通して概念形成やコミュニケーション能力の向上を図ります。(②③④⑤) ・お家の人と共に、親子の関わりを考え、日常生活に繋げていきます。(①⑤)
家族支援	・親子で通所することで、ペアレントプログラムの考え方をういてお子さんの強みに目を向け、子育ての方法や特性への支援の方法を一緒に考えていきます。 ・祖父母やきょうだいなど、家族全体へアプローチし、お子さんの理解者を増やしていきます。			
移行支援	・園訪問を通して、園でのお子さんの様子を把握し、園の先生と共通理解のもと、療育を進めていきます。 ・就学の際には、保護者の合意のもと、サポート情報を作成し、次のステージへ支援の内容を引き継いでいきます。			
地域支援・地域連携	・保育園、幼稚園、地域の発達相談員、こども家庭センター、保健センター、教育委員会、市町担当課、医療機関等、お子さんに関わるすべての機関と連携を図り、お子さんを中心に家族の皆様を地域で支えていきます。			
職員の質の向上	・年1回、療育を公開し、医師や有識者から助言を受けています。また、他施設で行われる公開療育にも参加しています。 ・ケース検討会を通して、訓練機関とも連携を図り、療育の質の向上に努めています。 ・年3～4回、療育講座を開催し、支援の方法等について、研修をしています。 ・虐待防止研修、感染症対策研修などで、不測の事態にも対応できるように研修を行っています。			
主な行事等	・療育講座、おはなし広場、避難訓練等			

